

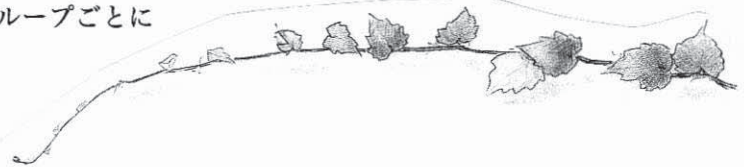
◇特集 けやきの活動一過去、現在、未来  
◇Report 学習会・大学図書館の機能と役割

## 特集 けやきの活動一過去、現在、未来

### けやきってどんなことしているの？

図書館友の会けやきは設立以来、6年。市民の手で左京図書館をよりよい図書館に、という思いで活動を続けてきました。試行錯誤の中、様々な活動の芽が、育って来たところです。今回はけやきの活動に関わる方に、その思いや具体的な内容をグループごとに紹介してもらいました。

けやきは、こんなことをしています  
ご一緒にいかがですか？



#### ■「お楽しみ会」協力グループ「であいの森」

子どもたちと関わる仕事を退職してから、「読み聞かせ」をライフワークにしたいと思い、「お楽しみ会」協力グループ「であいの森」に参加させてもらうことにしました。

「お楽しみ会」を担当する日が決まると、どきどき、わくわくしながら、どんなお話を読もうかと考えます。7月の「お楽しみ会」は絵本コーナーに飾ってある『うらしまたろう』から始まる、『海へ行こう』をテーマとすることにしました。『うらしまたろう』のお話はいくつかあったのですが、ストーリーも絵もすこしづつ違うし、これがいいと思うものがなかなか見つからなくて、思いのほか苦労しました。絵本コーナーでいろいろな本を実際手にとって選んだり、海の生き物など科学読み物も紹介したい、折り紙でヨットを折るのもバラエティーがあっていいかもしれないなど、子どもたちが最後まで楽しんでくれるように工夫しています。

「お楽しみ会」が始まる前から絵本コーナーで座って待っていてくれたり、その日読んだ本をさっそく借りていってくれたり、私にとっても楽しい「お楽しみ会」協力なのです。  
(田中直子)

●毎月第4土曜に開かれる左京図書館主催の「お楽しみ会」や周年行事などに”であいの森”のメンバーが交代で出演。担当の司書さんと協力して楽しい催しとなっています。興味のある方ぜひ一緒にしましょう。

#### ■映画上映会 案内ボランティア

映画会のお手伝いを楽しくさせていただいていましたが、その映画会がしばらく中断。淋しい思いをしていましたところ、今年に入って再開されました。映画を見にいらっしゃる方、ボランティアの方など、老若男女に出会い、お話する機会に再び恵まれて幸せに思っています。

再開されてからの映画は、自然を題材としたものが多いためか、見にいらっしゃる方の年齢層にも幅があり、以前よりも男性の姿が目につきました。忙しい毎日を送っている現代人にとっては、癒し系の映画といえるのかもしれませんが。映画上映後、「楽しかったわ」「洋画を」「昔の映画を」や「映画会が事前にかかるように」「チラシを貼るなど宣伝をして」等々の声を残して帰られる方が多くいらっしゃいました。また顔見知りの方達からも、時折「映画会は今度いつ」と聞かれ「関係者の方に聞いておくね」との会話もあります。映画会を楽しみにしている人が、結構いらっしゃるようです。

映画会の企画、準備をされる方々のご苦労はいかばかりかとお察し致します。出来上がったところへ、ちょっとお手伝い程度の私ですが、これからも映画上映会を多くの人の声を取り入れながら継続していただけたらうれしく思います。  
(T)

●左京図書館主催の映画上映会で、案内や会場整理のお手伝いをしています。どなたでもご参加いただけます。



## ■ 飾りを作る会

「飾りを作る会」と聞いて、図書館のどこに飾りが？と思う方は多いと思います。図書館に入って右側、絵本コーナーから視線をすこし上にあげると、すごい迫力の壁画が目に飛び込んできます。この壁画こそ、「飾りを作る会」の作品です。

一年に4回、制作します。日本の四季にちなんで、できるだけ季節感あふれるもの、そして図書館を意識して童話や絵本からテーマを考えて創作します。作るのは、原則として3、6、9、12月\*の第4土曜日の午後2時から、3階の会議室が制作場所です。子ども達だけでも、大人だけでも、もちろん親子連れも大歓迎です。1ヶ月ほど前から、図書館の入り口に案内も掲示されます。

工作って苦手！、そう思っている人はたくさんいると思います。でもここでは、紙を切ったりボンドで貼る作業がほとんどです。自分の作ったところが見劣りしそう、という心配も無用です。1時間すこしの制作のあと、壁に貼られた壁画を見ると、自分の手になるところは輝いて見えます。ちょっと嬉しい気持ちになります。こんな気持ちを味わいに、一度参加してみませんか。

(筒井紀恵)

●左京図書館主催の行事。毎回アイデア溢れる楽しい作業で、力強い作品が作られています。どなたでも当日参加可能です。\*来る12月は3日(土)午後2時より開催(8P参照)

## ■ おとなのための語りを楽しむ会

「おとなのための語りを楽しむ会」は2001年に始まりました。大人の方を対象に、日本や世界の昔話、創作の物語等を「京都おはなしを語る会」のメンバーとして語ってきました。

おはなしは子どもが聞くものと思われがちですが、大人が聞いても楽しいものであり、耳で聞くことの心地よさは大人にとっても格別です。参加者の方から「ゆったりした気持ちで聞いた」「耳にこころよい時間を過ごした」「ほっこりした気分になった」「語って聞かせるということが子どもに向けてばかりではないとわかった」等の感想をいただきました。

昔話には長い年月を経て先人から伝えられた様々なメッセージが込められています。子どもの時に聞いたおはなしでも大人になって聞くと、子どもの時には気



9月作成の絵本コーナーの飾り  
「秋のおいしいものどっさり」

づかなかったことがストンと胸に落ちることがあります。子どもは子どもなりに大人は大人なりに、メッセージを受けとめることができるのです。そのような意味で大人の方にも昔話を聞いていただきたいと思っています。

極度の情報化社会の中で、私たちは実に多くの情報を得ることができます。そんな現代にあって、おはなしにゆったりと身をゆだね、昔話からのメッセージに耳を傾けるひとときも大切ではないでしょうか。大人だけでなく中・高生の方もぜひ聞きにきて下さい！

(奥坂恵子)

●左京図書館主催の大人向け行事として「京都おはなしを語る会」が語り手となり、年に一回程度開催。けやきは両者の橋渡し役を務めています。今年は第5回目で、11月5日(土)午後1時30分より(8頁参照)。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

## ■ 原画展・講演会開催

2004年1月に左京図書館で開催された原画展に事務局メンバーとして関わりました。この『ジンガくんいちばへいく』の作者である伏原納知子さんとは、小学校でのお話ボランティアで出会いました。時折伏原さんが話されるアフリカでの生活・子供達の様子などは、私にとって新しい文化との出会いでした。そして同時にアフリカの子どもを主人公にした絵本を創りたいという積年の思いを知ることもになりました。

いよいよ出版という時には原画を見せていただきました。特にバザールの場面は、ジンガくんが途中で出会った人達がたくさん登場します。この細やかな描写や表情豊かな人々を原画で見ていただく機会を、身近な図書館で持つことができたことは意味深いことでした。また原画や講演を通して作者のアフリカへの深い思いを受け取っていただけたことと思います。

今夏、作者は絵本をスワヒリ語に翻訳して、多くの本と一緒にアフリカの子ども達に届けに行かれました。その時の子供の様子や現在の状況を地域の皆さんに



知っていただく機会をつくってあげたいと思います。  
また、今後も様々な原画を紹介し、講演会を開催することで地域の図書館が身近な楽しみ場所となるよう努力したいと思います。(北園裕子)

●これまで2回の講演会と3回の原画展企画し、左京図書館とけやきの共催で開催しています。

## ■ ‘あかちゃんに絵本を’ ボランティア

2003年10月より保健所で始まった8ヶ月健診時の「絵本ふれあい事業」。左京図書館ではそのフォローアップのために「‘あかちゃんに絵本を’ボランティア」が実施されている。毎週木曜日10時30分～12時にボランティア2～3人が赤ちゃんに絵本を読んだり絵本選びのお手伝いをする。

ある秋の日。8組の親子が来てくれた。初めて来た8ヶ月児A君は周りが気になってきょろきょろ。お母さんは絵本の方を向かせようとするが「いいのよ。お母さんが聞いててね。」と読み続ける。お母さんがほっとして絵本に集中してくれるといつの間にかA君もじっと見ている。A君・8ヶ月児B君・9ヶ月児C君に何冊か読んでいるうちにお母さん同士で「何ヶ月ですか？」と交流が始まった。赤ちゃん3人はお互い興味深そうに触り合ったり見つめ合ったり。すっかりお友達になり12時近くまで和やかに過ごした。1歳児Dちゃんはお母さんにくっついたまま離れない。そのまま絵本を1冊読んであげたらちょっと笑顔を見せてくれた。図書館カードの作り方を説明したら早速カードを作って借りて帰った。少し大きい兄弟は「これ読んで」と自分で絵本を持ってくる。ぐずぐず言っていたE君はすぐにバイバイしてしまった。あつという間の1時間半。

最近積極的に赤ちゃんに絵本を読んであげるお母さんが増えたと感じる。

「1歳過ぎてやっと本をじっと見るようになった。」

「この本気に入ったみたい。」などの言葉に励まされながら赤ちゃんに触れ合っている。本への『初めの一歩』となることを願って。(喜多祥子)

## ■ 左京図書館絵本学習会

2004年3月より月1回、絵本学習会を開いてる。03年10月より京都市で「絵本ふれあい事業」が始まった。保健所での8ヶ月健診に訪れた親子に、ボランティアが絵本の紹介や絵本を仲立ちにした子育て支援を行なう活動である。左京保健所でも活動が始まった。赤ちゃんが絵本と触れ合っていくためには1回限りの健診の場だけでは不十分で、地域の図書館によるアフターケア、サポートが不可欠である。そこから左京図書館に‘あかちゃんに絵本を’ボランティアが生まれた。これらの活動に参加するボランティアは皆、赤ちゃんが好き、絵本が好きである。しかし図書館や書店には「赤ちゃん絵本」があふれている。その中から「これは！」という1冊を選び出すのは至難の業である。赤ちゃんとの絵本の出会いのお手伝いをするボランティアが、赤ちゃんとの絵本についてより深く知っておきたい、ボランティア自身が絵本について学んでおく必要を感じて、本学習会はこの2つのボランティアによる絵本研修の場として出発した。

これまでに、京都市図書館作成の「本のもり・赤ちゃん編」（8ヶ月健診時に配布する「ねえ、よんで！」と同内容のリスト）掲載の赤ちゃん絵本を中心に1冊1冊丁寧に読みあう形で検討してきた。わずか10数ページの赤ちゃん絵本にも、読む人の数に等しい多様な読みがあり、毎回新しい発見がある実り多い学習会となっている。現在は「本のもり・幼児編」の検討に入っている。赤ちゃんの成長は早いですからね。(中川あゆみ)

●あかちゃんに絵本をボランティア及び左京図書館絵本学習会は新たな仲間を募っています。どちらか一方のみの参加も可能です。

### 一緒にしましょう！

★今回紹介したけやきの活動に興味をもたれた方は、ぜひ下記事務局までご連絡ください。

★毎月一回、事務局会議を図書館階上の会議室で開催しています。内容は学習会・講演会等催しの企画、ニュースレターの企画、各グループの活動の情報交換、課題の検討などです。

左京図書館を身近でよりよい図書館になるために…関心のある方はぜひ一度事務局会議をのぞいてください。

11月10日(木)午後3時30分～5時 12月5日(月)午前10時～12時

けやき事務局(永井方) FAX 075-721-2625 (ご連絡はできるだけファックスをお願いします)



## ■ 学習会

図書館友の会の活動を展開するにあたって、「理想の図書館像・公共図書館のあるべき姿」を知り、イメージすることは必須である。また、友の会活動そのものについても暗中模索、内外の先例に学ぶことが多い。そこで、これらのことをテーマとした学習会を開き、会員外の図書館利用者や図書館関係者へも参加を呼びかけた。

これまでも京都府全体では子ども文庫連絡会などが主催して図書館に関する学習会が何度も開かれていたが、会員をはじめ地元の多くの利用者が図書館への関心・理解をさらに深め、友の会活動が充実することをめざして学習会を持った。会の発足当初から懸案の学習会であったが、なかなか実現しなかった。

ようやく2003年6月に、第1回目として茨木中央図書館友の会代表の福山恭子さんをお招きして「市民とともに作る図書館をめざして」と題し図書館友の会の活動について設立以来の豊富な御経験を踏まえお話していただいた。以後、2004年は会員の図書館情報学研究者岩崎れいさんに「今、市民が願う図書館とは—」をテーマに公共図書館のあるべき姿を示していただき、2005年は岩崎れいさんと会員山中知佐さんを講師・コメンテーターに「大学図書館の機能と役割」について学習した。以上のようにこの3年間は年一回定期総会後に学習会を開いており、直後のニュースレターで報告をしている。(永井麻里)

## ■ 図書館懇談会

けやきが1999年に活動を始めて6年の今年、初の試みとして図書館職員と懇談する機会が持てました。日頃親しく言葉を交わす間もないほど忙しくしておられる職員の方々から、私たちの目には触れない隠れた御苦勞話を伺うことが出来ました。

その一。返却期限を守らない利用者が多いとのこと。あまりに長引く場合は督促の電話を司書の方が掛けるそうですが、そのために半日位時間を費やすこともあるそうです。資格を有効に活かしてこそその仕事のはずです。またその電話代にしても私たちが納めた税金からまかなわれるわけです。二重の無駄としか考えられません。その電話代を図書の購入費に充てれば一

体何冊の本になるでしょう。

その二。ページの切り取りにも頭を悩ませているとのこと。外から見ただけではわからないような切り取りも多いそうですが、それは単なる破損とは違います。切り取られたページの奥からは、他の利用者の存在が眼中にない自己中心的な我ままが感じられます。

その三。懇談の後、以前にも増して図書館が身近な存在として感じられるようになりました。職員の方には勤務時間中ご無理お願いしますが、皆が気持ちよく利用できる図書館にしていくためにも、このような機会をまた持ちたいものです。次の機会には数多くの方には是非参加してほしいと思いました。(増井和子)

## ■ ニュースレター発行

ニュースレター「けやき」は、けやき設立当初より発行、今回で20号となる。創刊は4頁だったが、次第に内容が増え、現在6～8頁で年3回発行している。編集・印刷はすべて事務局メンバーを中心とする会員のボランティアおよび左京図書館の協力で行われている。1300部発行。会員に郵送する他、左京図書館にも置き、来館者に自由に持ち帰ってもらっている。

編集方針として、左京図書館に関する事、京都市の図書館に関する事、図書館そのものを考える事、という3つの柱を念頭において、毎回特集テーマを設定してきた。具体的には事務局会議で出てくる様々な課題、要望を元に企画編集していく。

設立当初は特に左京図書館の現状、それに伴う要望や左京図書館の新しい取り組みに関心が集まった。それを考える前提となる情報や知識を得るために、左京図書館、中央図書館へのインタビュー、左京図書館での利用状況取材、また他府県の図書館等の見学(探検隊は行くシリーズ)等を事務局メンバーで行った。これを記事として掲載し、図書館の運営者と利用者の双方に情報提供している。またけやきから左京図書館、中央図書館への提言や要望についても、随時やりとりを掲載してきた。

今後も左京図書館をベースに広い視野で図書館に関する課題に取り組んでいきたい。(島崎真紀子)



## けやきの設立から現在まで

“図書館友の会けやき”が正式に発足したのは1999年6月。左京図書館の新築移転に際し、情報公開と市民利用者の声をハード・ソフト両面にわたって反映させることを願って活動した、“新左京図書館を考える会”が母体であった。それまでの京都の図書館運動は図書館の新設に関わるものが多かったが、新図書館開館後も地元の市民が声をあげ利用者の立場で図書館活動に参画することが、図書館を活性化し市民利用者が望む図書館の実現への一助になるのでは、と考えた図書館利用者が自主的に集まって“図書館友の会けやき”が誕生した。

具体的な活動の場は地元の左京図書館であるが、左京図書館は京都市図書館の一地域館であり、図書館運営の基本的な理念やシステムは京都市全体の仕組みのなかで動いているので、あえて“左京図書館友の会”とは名乗っていない。また、我々の活動により左京図書館で実現したことがそれぞれの京都市図書館の利用者が共有する要望であることも多く、ぜひ他館でも実現して欲しいとの思いもあって、

“左京図書館友の会”ではないのである。

スタート時に具体的な活動モデルはなく、一步一步手探り状態であった。ちなみに1999年11月発行のニュースレターけやき創刊号の会への参加を呼びかける文章には、会の活動内容として次のように書かれている。「図書館と利用者のパイプ役…会報の発行・懇談会、図書館でこんなことできないかな…催し物の企画実行、図書館のこともっと知りたいな…学習会の開催、図書館が居心地よくなるには…あなたのアイデアは?」。また、大阪府茨木市の図書館友の会 萌の会報に掲げられている一文

もし、あなたが現在の図書館サービスに満足しているのなら、それに感謝して友の会に入会しませんか。もし図書館に何かを付け加えたり、改善しようとお望みなら、その提案を携えて友の会に入会しませんか!

(アメリカ・フロリダ・デイトナビーチ、



ボルシア図書館友の会会報より)

にも、けやきの活動の方向性を探るにあたって刺激を受けた。

まず最初に立ち上がったのは、おはなし会協力グループ“であいの森”である。図書館のオープニングフェスティバル以来、毎月のお楽しみ会や周年行事などに参加している。さらに、「図書館を地域の文化・情報の拠点・発信地に」というけやき会員の思いが様々な行事の企画・提案・実施への協力という形で実を結んだ。図書館が始めた映画上映会に主に案内ボランティアとして参加協力することに始まり、「もっと大人向けの行事も」との声に答えて提案した「おとなのための語りを楽しむ会」は図書館主催行事となり、講演会、絵本の著者による読み語りや歌とダンスの集い、絵本原画展など、大人も子どももともに楽しめる催しを企画提案し、図書館と共催することができた。

また、図書館への感謝の気持ちを利用者それぞれの得意なものや好きなことで届ける活動の一つとして出発したのが、現在の「飾りを作る会」である。絵や工作の好きなものたちが集まうて「来館者が和む作品を」と当初はけやき会員の自宅等で作品を作り図書館に届けていたのが図書館行事となった。

そして、活動のもう一方の柱、図書館への提案活動は、ニュースレターを通してや学習会・図書館懇談会、毎月の事務局と図書館とのミーティングなどで、展開している。会員の声を図書館に届けたり、図書館の動向を広く公開したり、われわれの望む図書館像を示したり…。 “なまもの”である図書館が停滞・腐敗しないためには、よりよき図書館をめざしての図書館と利用者のコミュニケーションの場を継続的に創り続けることが必要であり、それが図書館友の会の役割であると考えている。 (永井)



## 大学図書館の機能と役割

これからの時代における図書館のあり方

本年度のけやきの学習会は6月13日左京図書館階上の会議室にて2005年度けやき総会、図書館懇談会に引き続き開催されました。「大学図書館の機能と役割～これからの時代における図書館のあり方」と題し、講師として岩崎れい氏（けやき会員 京都ノートルダム女子大学助教授 図書館情報学）を、また、コメントーターに山中知佐氏（けやき会員 元京都大学法学部図書室職員）のお二人をお迎えしました。

まず岩崎氏より、教育と研究という目的のために設置されている大学図書館の役割についてお話がありました。アメリカの大きな大学では教育用と研究用にそれぞれ図書館があるとのことでした。

続いて山中氏が、京都大学法学部図書室の特徴や機能を紹介されました。京都大学には附属図書館の他に各学部などに図書館が多数ありますが、この法学部図書室は百余年の歴史があり、戦災で焼けていないことから、貴重な資料も多くあるとのこと。また、法令のレファレンスの事例も紹介され、資料の活用を担当職員さんが詳しくサポートされていることを知りました。

さらに岩崎氏が京都ノートルダム女子大学の図書館が学術情報センターとして行う学生に対する利用者教育や支援の実情を紹介されました。

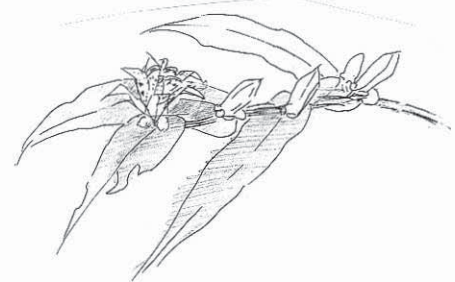
また日本の大学図書館全体の課題として、予算と専任職員数の減少があります。図書館を重視しない大学の方針で予算が削減される場合。派遣・パートによる不安定な雇用システムや正職員であっても司書が異動の対象となる人事体制等で職員に専門知識が身に付きにくいこと。コレクションについても、サブジェクト・ライブラリアン（subject librarian）が米国とは違って日本ではほとんどいないため、専門分野の資料の収集に支障をきたすこともあることなど、さまざまな問題が紹介されました。

左京区のような「大学の街」の住民として関心のある、大学図書館の地域開放の課題について、岩崎氏はアメリカでの地域開放の意義やその例を紹介され、日本の場合、大学内へのサービスの質を維持する、あるいはそれもできていない状況が多い中、アメリカのような本質的な図書館サービスを大学が地域に提供するの、厳しいのでは、という意見でした。

山中氏も、担当者の気持としては区別なく資料をお見せしたいが、（旧国立大学の場合）人員も予算も当該学部の学生の数に対して措置されているので、現状のままの地域開放にはかなりの無理があり、国が実情を理解し、予算を措置することにかかっている、ということ。地域開放は文部科学省によって提唱されており、大学によって、登録すれば利用できることや、紹介状が必要など対応はそれぞれですが、開放に付随するさまざまな課題を知り、「開かれていけばそれでいいのか」と考えるきっかけになりました。

お金と人に集約される様々な課題、これは大学図書館に限らず公共図書館にも共通です。山中氏によると、法学部図書室でのレファレンスワークの実践を例にとると、かつては一人前になるのに十年のスパンが必要だったとのこと。このように専門職には息の長い養成期間が必要で、正職員として安心して働けない人は育たない、ということがよくわかりました。

公共図書館との役割の違いとともに、共通の課題も見え、意義の深い学習会となりました。（島崎）





## INFORMATION

### 「赤ちゃん絵本を考える」冊子の紹介

2003年以来左京図書館でも赤ちゃん絵本をつなぐ様々なサービスが展開され、赤ちゃんの利用者が随分増えました。全国的な「赤ちゃんの本」についての関心の高まりの中、けやき会員で左京図書館の「赤ちゃんに絵本を」ボランティアでもある川端春枝さんがまとめ役となり、読書会の記録「赤ちゃん絵本を考える」がこのほど発行されました。読書会を主催する京都家庭文庫地域文庫連絡会（京庫連）より届いた冊子の紹介文です。

2000年の子ども読書年以來、「赤ちゃんに本を」と声高にいわれてきましたが、赤ちゃんの本については、まだわからないことがいっぱいあります。

一昨年から、私たちは月一回赤ちゃん絵本の読書会を開き、持ち寄った絵本を紹介したり、読み聞かせをしたり、ときには二歳未満の赤ちゃんになったつもりで聞き手に回ったり、また、保健所・児童館・文庫・図書館・家庭で赤ちゃんに本を読んだ体験を話し合ったりしてきました。子ども文庫関係の者だけでなく、保健所で8ヶ月健診時に絵本の紹介をしている「絵本ふれあいボランティア」や、公立図書館の司書などいろいろな形で赤ちゃん絵本と関わっている者たちが集まっています。

・赤ちゃんは絵本をどう受け取るのか？ 赤ちゃんにとつ

て絵本とは？

・「赤ちゃん絵本」として出版されている絵本がほんとうに赤ちゃんに向くのか？

・赤ちゃんの認識や体験と、絵本に出てくるものごととは、どんな関係なのか？

こんな疑問をいくつも抱きながらすすめています。

冊子「赤ちゃん絵本を考える」は、この読書会の二年間の記録をまとめただけでなく、寄せられた実践報告も載せましたので、赤ちゃん絵本を考える手がかりになるかと思えます。

これはよくある推薦リストではなく、また赤ちゃんの絵本を網羅しようとしたものでもありませんが、話題に上った絵本約350冊の索引を付けましたので、使い易いと思います。

昨今、いわゆる子育て支援の場が増加し、赤ちゃんに本を読んだり、紹介したりする機会が全国的に広がっています。どこでも、赤ちゃん絵本についての情報は求められています。一方、赤ちゃん絵本の出版はずいぶん増加しているのですが、それをゆっくり見比べて選ぶ場は、ほとんどありません。私たちもみんな手探りでそれぞれの場での活動をしているのですが、読書会での話し合いが、赤ちゃんのこと、本のことを知る助けになってきたことを感じています。

私たちの積み重ねた情報はまだわずかですが、赤ちゃん絵本を考える材料になればと思います。冊子や読書会についてのお問い合わせは京庫連の奥田（0774-32-8204）までどうぞ。

### けやきの 本棚 20

わたしの  
おすすめの本

1 2 3

タナ・ホーバン著  
グランママ社 05年

一歳のお誕生日の贈り物にしました。「10」の頁で本の足の指と自分の足を並べて比べている一歳と四日に生長した子供がパパと寝ころんで、しつかりと本に興味を示している写真が届きました。

やわらかな線、やさしい色、ゆつたりした形のわかりやすい絵、全頁が同じ厚さ、大きさも気に入りました。（会員N・一乗寺）

孤独か、それに等しいもの

大崎善生著  
角川書店 04年

表題作と、ほか四つの小さな話からなる短編集。どの話もみんな孤独感を詰めこまれ、最後に訪れるやさやかな救いによってそれがより強調される。なんともいえない切ない読後感と、とても美しい文章が印象的。装丁もかわいらしく穏やかで、静かに机元に置いておきたくな

る。（R・Kさん・吉田）

森の世界爺

樹へのまなざし

多田智満子著  
人文書院 97年

庭の木や旅先で見た異国の植物さらには神話や伝説の木まで様々な草木への想いを、木が気になって気が気でない、ということば通りの機知に富んだ文章で綴ったエッセイ。著者は詩人ですが、ユルスナール著「ハドリアヌス帝の回想」の訳者として三島由紀夫を驚嘆させたという逸話を残しています。（K・Tさん・左京図書館）

伝承おりがみ

親子であそぶおりがみ絵本  
つじむらますろう編  
福音館書店 84年

外国の人から折り紙を教えて、といわれ、久しぶりに子どもの本棚から取り出した。折り紙のペーパーバック四冊組。三角か、四角か、出だしの折り方で分類されているので、人に教えるときも参考になる。折り紙の本は多数あるが、落ち着いた色合いと明解な図、折り方の種類も充実で、やつぱりこの本、と納得した。（会員S・北白川）



